

令和 4 年 6 月 1 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K01670

研究課題名(和文) 1914年以前のイギリスにおける女性のホッケーの普及過程に関する研究

研究課題名(英文) A study of the diffusion processes of women's hockey in Britain before 1914.

研究代表者

秋元 忍 (Akimoto, Shinobu)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：50346847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1914年以前のイギリスにおける女性のホッケーのゲーム普及過程について、特にイングランドに焦点を当て検討した。1895年、女性カレッジや地域ホッケークラブの活動の活発化などを背景として、女性独自の統括組織が設立された。加盟クラブ・学校数は、1900年代末にはピークに達したが、1910年代から非加盟クラブの活動が活発化すると減少傾向に転じた。統括組織加盟クラブに留まらない、女性のホッケーの多様な普及は、女性のゲーム独自の技術、戦術論の深化と、一部の有閑な女性たちのゲームから、広い階層の女性たちから人気を集める理想的な冬季のゲームへというイメージの更新を伴っていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多様性の尊重とあらゆる差別の排除は、今後のスポーツのあるべき姿を考える上で重要な世界的課題である。それらの課題の中でも、女性のスポーツ参与の更なる促進は、性をめぐる差別構造の解消のために重要な意味を持つ。本研究は、歴史的に獲得されてきた女性の主体的かつ多様なスポーツ実践を、近代スポーツ普及期における女性の参与の象徴的存在となったホッケーに着目して明らかにすることを通して、女性スポーツの「現在」を相対化しようとした点に、学問的、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study examines the diffusion processes of the women's game of hockey in Britain before 1914, with a particular focus on England, where in 1895, women's own governing body was established partly due to the increased activity of women's colleges and local hockey clubs. The number of affiliated clubs and schools peaked at the end of the 1900s, but began to decline from the 1910s as unaffiliated clubs became more active. The diverse spread of women's hockey beyond the governing body affiliated clubs was accompanied by a deepening of the women's game's unique technical and tactical theory and a renewal of its image from a game of a few respectable ladies to an ideal winter game that was popular with women from a wide range of classes.

研究分野：スポーツ史

キーワード：女性スポーツ イギリス ホッケー

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 近代イギリススポーツ史像の再検討の進展

近代イギリススポーツ史研究の成果を総括した Tranter は、近代スポーツの普及に関する説明はいまだ十分ではないと指摘していた。その背景には、かつてスポーツ普及のモデルとみなされた社会階層の上層から下層への下方伝播という説明とは合致しない、多様な経緯が示されつつあるという研究状況があった。ゴルフなど上流、中流階級に人気があったスポーツは労働者階級によって広く行われることがなかったこと、労働者が主体的にスポーツの組織化を推進した例が存在すること、女性のスポーツにはこれまで考えられていた以上に多様な経験が見られることなどの事実が解明され、従来の説明の再検討が、社会階層、性、スポーツ種目など、多様な観点から要請されたのである。最も多くの成果の蓄積が見られるフットボール史でさえ「語られざる物語」が数多く存在すると主張した Harvey や、企業によるスポーツの供給は、学校以上に大規模に行われていたとして、スポーツの大衆化に果たした企業の役割を高く評価する Heller、Munting らの研究に代表されるように、Tranter による指摘は以降の研究に継承され、近代スポーツ史像の再検討が多様な観点から試みられてきたといえよう。

### (2) 近代スポーツ史像再検討のための、申請者によるイギリスホッケー史研究の開拓と進展

以上の研究動向を踏まえ、申請者は、従来ほとんど研究対象とされることがなかったスポーツであるホッケーに着目し、そのイギリスにおける普及に関する研究を以下の 4 点から開拓し、進展させてきた。男性のゲームの統括組織の普及戦略の検討。統括組織非加盟クラブの活動の検討。企業内ホッケークラブの活動の検討。スポーツ用具業者が果たした役割の検討。その結果、男性のゲームの統括組織関係者は 20 世紀初頭に至ってもゲームの大衆化を志向しておらず、地域限定的で緩やかなホッケーの普及の規模と速度は、統括組織の意図を反映したものであったこと、統括組織が禁止、非難していた男女混合ホッケーやリーグ戦を実施していたクラブが全国的に存在し、消滅するどころか増加傾向にあったこと、統括組織加盟、非加盟の別を問わず企業の支援を受けた企業内クラブが広く存在し、地域的なゲームの普及に重要な貢献をなした例もあったこと、用具業者の柔軟かつ多様な用具供給がゲーム普及の一端を支えていたこと、などが解明された。ゲームの普及は多様な実相を伴うものであったというホッケー史研究の成果は、近代スポーツ史像の再検討を強く促すものであった。

### (3) 未開拓な領域としての女性のホッケーのゲーム普及過程とその解明可能性の高まり

しかしながら、これまで研究では、女性によるゲームの組織化の経緯とその後の普及過程については十分な検討を加えることができなかった。その主な要因は史料の不在にあった。ただし、2011 年のバース大学史料室ホッケーコレクションの公開と、2012 年のナショナルホッケーミュージアムの開館により、史料公開が著しく進展し、女性のゲームの普及過程についても一級史料に基づく実証研究が可能な段階を迎えている。これらの機関の所蔵品には、女性プレイヤーの手記など、従来その存在が確認されていなかった史料が大量に含まれている。これらの新史料の分析に基づく研究は、従来の研究とは異なる観点から、ホッケーのゲーム普及過程の特徴を克明に浮かび上げらせ、さらには、新たな近代イギリススポーツ史像を提示する可能性がある。以上の着想から、本研究では、イギリスの女性のホッケーの普及過程に関する研究を行うことにした。

## 2. 研究の目的

1914 年以前のイギリスにおける女性のホッケーのゲーム普及過程を、以下の 3 点から明らかにする。

(1) 組織化以前のゲームの実施状況：女性のホッケーのゲームは、いかなる社会的背景の中で誕生し、誰によって、どの程度実施されていたのか。

(2) 統括組織の設立の経緯：1895 年の女性単独の統括組織の設立を主導したのは誰であったのか、またその設立はいかなる議論の中で実現したのか。

(3) 組織化以降のゲーム普及過程：組織化以降、統括組織加盟クラブと非加盟クラブの活動は、いかなる対立関係の中で、それぞれいかなる規模と地理的拡大を伴って展開を見たのか。

## 3. 研究の方法

研究目的(1)については、平成 29 年度において、この目的を達成するための史料調査を、ブリティッシュライブラリー、ケンブリッジ大学図書館、ロンドン大学ロイヤルホロウェイカレッジアーカイブ等において行った。結果、19 世紀末から先駆的にホッケーに取り組んでいた女性カレッジの関連一次史料(ホッケークラブ議事録、カレッジ内のクラブの報告、カレッジマガジン等)を入手することができた。

研究目的(2)については、19 世紀末のイングランドにおける女性のホッケーの組織化に関する研究の一環として、LHA の設立の経緯と、設立時のシーズンにおける LHA の活動実態について、

LHA 内部文書（総会、委員会議事録、会計帳簿等）ホッケー関連雑誌、ホッケー書等を主要史料として検討した。これらの関連史料は、平成 30 年度において実施したイギリス現地での史料調査によって入手したものである。

研究目的（3）については、令和元年度において、女性の統括組織が活動を開始した 1895/96 年から、戦争の影響を受け一部のゲームが中止された 1914/15 年の直前のシーズンである 1913/14 年までの時期を対象として、統括組織加盟クラブの数とその範囲の変遷について、両組織のゲーム普及戦略を踏まえつつ明らかにした。続いて、その変遷の特徴を、男性の統括組織加盟クラブの変遷と、女性の統括組織非加盟の女性のホッケークラブの団体の一つであるレイディーズホッケーリーグの加盟クラブの変遷との比較から検討した。令和 2 年度には、女性のゲームの普及に伴い、その技術、戦術がいかに語られ、継承されたのかについて、男性のゲームの技術、戦術の変化とあわせて検討を行った。令和 3 年度には、19 世紀末以降の技術解説書や手引書等のホッケー書を史料として、これらの書の著者が、特にイングランドの女性のゲームの普及過程をいかに認識し、記述していたのか、またその認識は、1914 年までの時期に、いかに変化したと評価できるかについて検討した。

#### 4. 研究成果

平成 29 年度に実施された目的（1）については、以下の成果が得られた。この年度は入手した史料の整理を中心に行ったが、女性のホッケーの統括組織の設立メンバーとなった、ケンブリッジ大学ガートンカレッジの活動については、カレッジマガジン『ガートンレビュー』の分析を通して、その実態解明に顕著な進展が見られた。本研究の結果、ガートンカレッジホッケークラブは、当時活発な活動が行われていたテニスクラブと密接な関わりを持ちつつ、1890/91 年のシーズンから活動を開始したこと、わずか数シーズンの間に、カレッジ内の学年対抗戦から、地域クラブ、他の女性カレッジとの対外試合、そしてオックスブリッジ戦へと、ガートンカレッジのホッケークラブの活動の範囲は広がっていったこと、1894 年に作成されたホッケーソングや、1895 年のセカンドイレブンの結成には、ホッケークラブの活動の充実の反映を捉えることができること、等が明らかになった。統括組織設立以前の女性のホッケーは、女性カレッジにその実施基盤の一つが確かに存在し、活発な展開を見せていた。

平成 30 年度に実施された目的（2）の成果は以下の通りであった。1895 年、イングランドの女性のホッケーを統括する最初の組織として、レイディーズホッケーアソシエーション（以下 LHA）が設立された。LHA の設立には、以降 100 年以上存続した、性による分離を伴うホッケーの国内統括の起点となった出来事として重要な意味を見出せる。LHA 設立の背景には、地域、学校のクラブにおけるゲームの活発化、アイルランドとの対戦、既存の男性の組織による女性のゲームの統括の拒否等の多様な経験の蓄積が挙げられること、LHA の規約、ルールの制定には男性の組織の規定が流用されたこと、LHA は大学教育を受けた女性のネットワークと密接な関わりがあったこと、そして 2 度の改名を経て、1997 年まで存続した組織名であるオールイングランドウィミンズホッケーアソシエーション（以下 AEWHA）が 1896/97 年開始時に採用されたこと、等が明らかになった。

令和元年度から令和 3 年度に取り組みされた研究目的（3）の成果として、以下の 3 点が得られた。

1914 年以前のイングランドにおける女性のホッケーの普及に果たした全国的統括組織の役割について、次のように評価することができた。1914 年以前の AEWHA は、女性のゲームの統括組織として全国的普及を支援し、1900 年代末には AEWHA 加盟クラブ・学校数はピークに達した。しかし 1910 年代から非加盟クラブの活動が活発化すると、加盟クラブ数は減少傾向に転じた。余暇に恵まれた女性たちの娯楽から、生活のために働く人々が熱狂し、参加するレクリエーションへの変化には、まだ十分な対応がみられなかった。

1890 年の初版出版以降、190 年、1906 年、1909 年に三度改訂され、出版が継続された、フランク・S・クレスウェル著『ホッケー』という著書を主要史料として分析した結果、以下の点が明らかになった。本書は、男性のゲームの統括組織、ホッケーアソシエーションの著名な役員による、廉価なゲームの概説書であり、男性のゲームに関する記述が中心となっており、初版には女性のゲームに関する言及は見られなかった。1900 年の新版以降、本書は女性の読者を想定し、女性のホッケーに関する一章を含むようになった。新版のこの章の冒頭では、スティック、スカート、シャツ、帽子などの装具選びの留意点の解説が続いていた。また女性のゲームに固有の技術論として、ロングスカートを使ってボールを止める技術について、以下の見解が示された。スカートには、ボールを止めることに利用できるという利点がある。それは安全な止め方であり、ルール違反ではないが、エレガントなものとは言い難く、スカートのひだでボールを見失うことになりやすい。スカートに頼ってボールを止めることをあまり頻繁にしないプレイヤーの方が優れたプレイヤーである。1909 年の再改定版にもこれらの記述は継承された。ホッケーの普及期に改訂が繰り返された本書には、男性のゲームだけでなく、女性のゲームの普及に伴う、独自の技術、戦術論の深化を確認することができた。

性差に基づき、異なる全国的組織に統括された男性、女性のゲームの普及は、主に男女の統括組織関係者を著者とするホッケー書の出版を伴った。男性の統括組織の役員であったクレス

ウェルが 1890 年に出版した、ホッケーのみを扱う最初の単著には、女性のホッケーに関する記述は見られなかった。しかし、1895 年の バタースビーの書は、女性のホッケーについて 1 つの章を充て、スミス、ロブソンらによる 1899 年刊の大部の書、*Hockey: Historical and Practical* は、全 4 部のうち第 3 部で女性のホッケーを扱い、女性の著者による 2 つの章を含んでいた。1901 年、ピカリングは、女性著者による、女性のホッケーに関する最初の単著、*Hockey for Ladies* を執筆し、1904 年には、女性著者による、最も詳細な技術解説書となった *Hockey as a Game for Women* をトムソンが出版した。以降、初版出版時には男性のホッケーのみに言及が限定されていた書にも、改訂を経て女性のホッケーに関する章が追加されるようになった。これらの書の中で、女性のホッケーの普及のイメージは、一部の有閑な女性に求められた新たなスポーツから、広い階層の女性たちから人気を集め、女性たちが巧みにプレイする冬季の理想的なボールゲームへと更新されていった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 秋元忍
2. 発表標題 1914年以前のホッケー書に記述されたイングランドにおける女性のゲームの普及のイメージについて
3. 学会等名 日本体育・スポーツ健康学会第71回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋元忍
2. 発表標題 イングランドにおける女性のホッケーの全国的統括組織加盟クラブの変遷と特徴 1895/96-1913/14年
3. 学会等名 日本体育学会第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋元忍
2. 発表標題 19世紀末イングランドにおける女性のホッケーの組織化に関する研究 レイディースホッケーアソシエーションの設立（1895年）と設立時のシーズンの活動の検討から
3. 学会等名 日本体育学会第69回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋元忍
2. 発表標題 レイディースホッケーアソシエーション設立（1895年）以前のガートンカレッジにおけるホッケー
3. 学会等名 スポーツ史学会第31回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 新井 博、小谷 究、鷗木 千加子、榎本 雅之、後藤 光将、谷釜 尋徳、福井 元、山脇 あゆみ、秋元 忍、 田村 大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 流通経済大学出版会	5. 総ページ数 280
3. 書名 スポーツ技術・戦術史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------